

中期経営計画(中計2028)の策定

中計2028の財務目標

- 前年の中計2027では、売上高750億円、経常利益50億円が目標
- 中計2028の目標は、売上高800億円、経常利益50億円
- 「人的資本投資」「エネルギー価格の高騰」等の対応とその影響を考慮し、前年の中計2027と比較して、経常利益の目標は一年先送り
- 中計2028ではROEに加えて、ROICを新たな目標に設定し、今まで以上に投資対効果を重視

※ROIC=(経常利益×(1-実効税率))÷(自己資本+有利子負債)
 ※自己資本、有利子負債は期首期末の平均

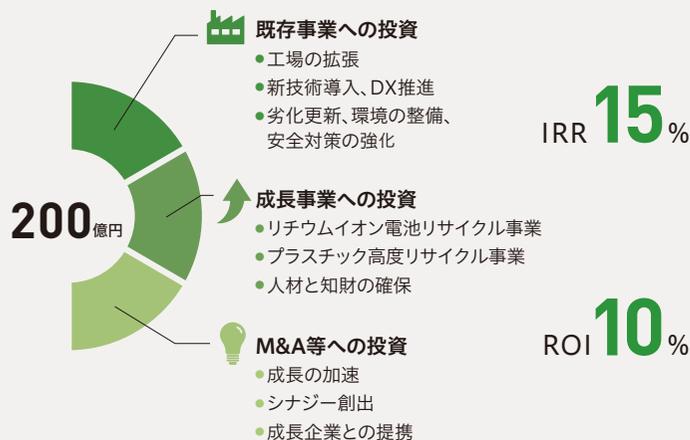
	売上高	経常利益	ROE	ROIC
2028.6月期	800 億円 CAGR(2023→2028)10%	50 億円 CAGR(2023→2028)21%	13%	9%
2026.6月期	680億円	33億円	11%	-%
2024.6月期	580億円	22億円	10%	-%
2023.6月期	491億円	19億円	8%	6%

前提条件(2023年7月以降)

鉄スクラップ	電気鋼	金	銀	ニッケル	コバルト	為替
50,000円/t	1,200円/kg	7,500円/g	85,000円/kg	2,800円/kg	4,000円/kg	130円/USD

投資ポートフォリオ

- 今後5年間で200億円の投資を実施
- 投資基準は、IRR 15%、ROI 10%を設定



人的資本への投資

- 新卒採用、リファラル採用等の多様な採用手法を活用する
- 社内の独自指標の「成長できる喜び」をKPIとし、教育プログラムを拡充する
- 前期は定期昇給、ベースアップを合わせ、6.44%の昇給を実施した
 今期以降も安定して高い水準を実施し、従業員への着実な還元を実施する
- 女性、外国人の活躍も注力し、女性管理職の人数等もKPIに設定した

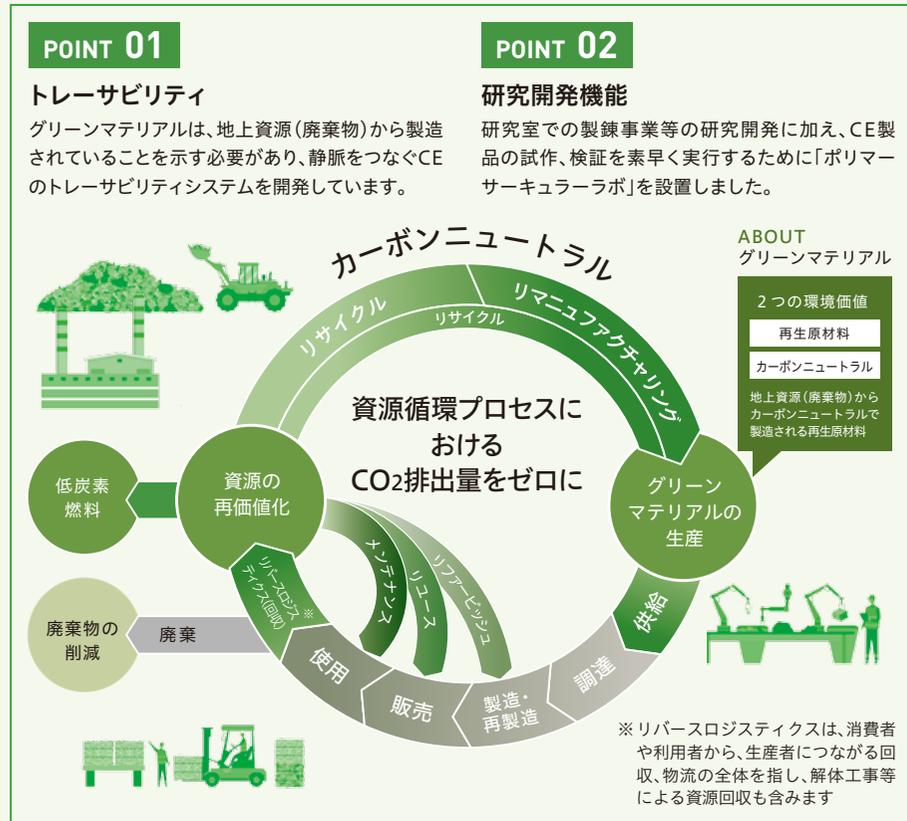
		KPI		進捗(2023.6)		目標(2028.6)	
		採用	育成	定着	多様な人材の活躍	採用	育成
採用	中途採用と新卒採用	事業推進人材採用	13人	30人			
	新卒採用	4人(2024.4入社)	40人				
	採用手法の多様化	リファラル・カムバック採用	全社員の11.2%	全社員の20%			
育成	人材育成	事業推進人材育成	9人	40人			
	グループナレッジの共有	ビジネススクール満足度	94.9%	100%			
	成長できる喜び	69.8%(2022.6)	90%				
定着	従業員満足	定着率	89.7%	95%			
		定昇+ペア	6.44%	3%以上/年			
	多様な人材の活躍	福利厚生	働き方満足度-%	働き方満足度 80%			
		女性管理職比率	8.4%	20%			
外国人比率	4.0%	10%					

戦略コンセプト サーキュラーエコノミー(CE)をリードする



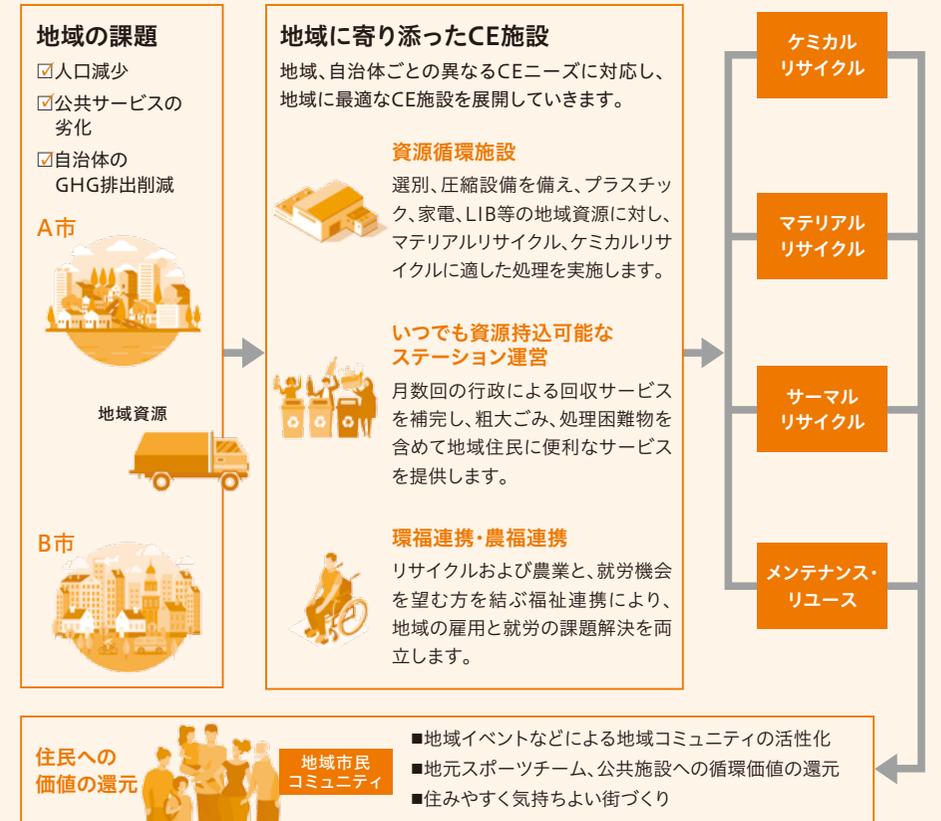
サーキュラーエコノミーをリードするために、エンビプログループが取り組む範囲を2つに分類

モノづくりを支えるCE



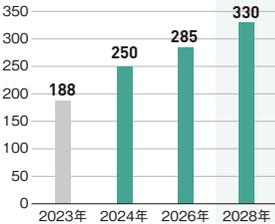
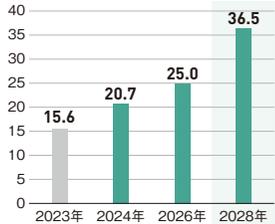
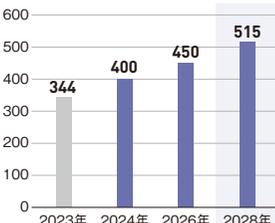
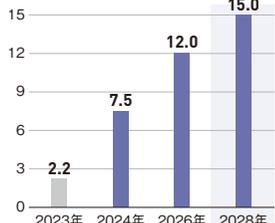
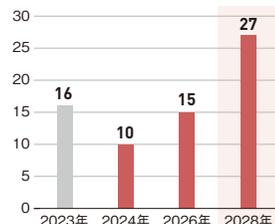
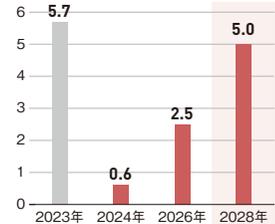
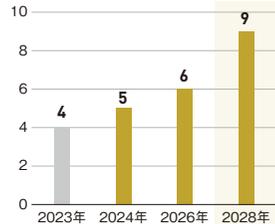
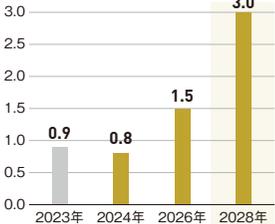
- モノづくり産業のお客様から資源・廃棄物を回収し、製品価値を最大化して市場に還元する
- 動脈産業と静脈産業のバリューチェーンをつなぎ、循環型のビジネスモデルを構築する
- 大手企業との連携を強化し、全国規模のCEスキームを構築することで、安定した物量の使用済製品を確保する
- メンテナンス、リファーマービッシュ、リユース、リマニュファクチャリング、リサイクル等の多様な方法で「製品利用の最大化」と「資源価値リークの最小化」を実現する

地域を支えるCE



- 長野県安曇野市で運営している資源循環センターでは、24時間回収のサービスを提供し、市民の方々から資源物を回収し、資源循環を実現する
- 障がい者の方が手解体をする等、地域密着の資源循環を実現し、自治体と協力してサーキュラーエコノミーを通じた地域活性化を実現する
- 短期では自治体のごみ行政を補完する役割を果たし、中長期では地方自治体のごみ行政に深く関与して、都市ごみのCE構築に貢献する

事業目標

セグメント	中計2028目標	注力事業の推進 (2024年6月期～2028年6月期)	売上高 (単位:億円)	セグメント利益 (単位:億円)																				
 Resource Circulation Business 資源循環	サーキュラーエコノミー実現に向けたビジネスモデルへの転換	<ul style="list-style-type: none"> ●脱炭素に伴う解体トレンドへの対応および、解体CEの研究 ●タイヤをはじめとしたポリマー製品製造におけるサーキュラーエコノミーの事例の実現 ●焼却灰からの金銀滓回収の推進 	 <table border="1"> <tr><th>年</th><td>2023年</td><td>2024年</td><td>2026年</td><td>2028年</td></tr> <tr><th>売上高</th><td>188</td><td>250</td><td>285</td><td>330</td></tr> </table>	年	2023年	2024年	2026年	2028年	売上高	188	250	285	330	 <table border="1"> <tr><th>年</th><td>2023年</td><td>2024年</td><td>2026年</td><td>2028年</td></tr> <tr><th>利益</th><td>15.6</td><td>20.7</td><td>25.0</td><td>36.5</td></tr> </table>	年	2023年	2024年	2026年	2028年	利益	15.6	20.7	25.0	36.5
年	2023年	2024年	2026年	2028年																				
売上高	188	250	285	330																				
年	2023年	2024年	2026年	2028年																				
利益	15.6	20.7	25.0	36.5																				
 Global Trading Business グローバルトレーディング	海外ポートフォリオの組み換えと、新規ビジネスへの挑戦	<ul style="list-style-type: none"> ●取扱量100万tに向けた新規取り組みの推進 ●国内電炉メーカーとの関係性強化 ●不採算事業からの撤退と新拠点、新商流への進出 	 <table border="1"> <tr><th>年</th><td>2023年</td><td>2024年</td><td>2026年</td><td>2028年</td></tr> <tr><th>売上高</th><td>344</td><td>400</td><td>450</td><td>515</td></tr> </table>	年	2023年	2024年	2026年	2028年	売上高	344	400	450	515	 <table border="1"> <tr><th>年</th><td>2023年</td><td>2024年</td><td>2026年</td><td>2028年</td></tr> <tr><th>利益</th><td>2.2</td><td>7.5</td><td>12.0</td><td>15.0</td></tr> </table>	年	2023年	2024年	2026年	2028年	利益	2.2	7.5	12.0	15.0
年	2023年	2024年	2026年	2028年																				
売上高	344	400	450	515																				
年	2023年	2024年	2026年	2028年																				
利益	2.2	7.5	12.0	15.0																				
 Lithium-ion Battery Recycling Business リチウムイオン電池リサイクル	電池to電池の実現に向け、工場の拡張と湿式製錬への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> ●茨城工場稼働 ●関西工場、海外工場の拠点探索、稼働 ●湿式製錬の事業化 	 <table border="1"> <tr><th>年</th><td>2023年</td><td>2024年</td><td>2026年</td><td>2028年</td></tr> <tr><th>売上高</th><td>16</td><td>10</td><td>15</td><td>27</td></tr> </table>	年	2023年	2024年	2026年	2028年	売上高	16	10	15	27	 <table border="1"> <tr><th>年</th><td>2023年</td><td>2024年</td><td>2026年</td><td>2028年</td></tr> <tr><th>利益</th><td>5.7</td><td>0.6</td><td>2.5</td><td>5.0</td></tr> </table>	年	2023年	2024年	2026年	2028年	利益	5.7	0.6	2.5	5.0
年	2023年	2024年	2026年	2028年																				
売上高	16	10	15	27																				
年	2023年	2024年	2026年	2028年																				
利益	5.7	0.6	2.5	5.0																				
 Welfare Service Business for People with Disabilities  Environment Management Consulting Business その他 障がい福祉サービス 環境経営コンサルティング	サーキュラーエコノミーの機能拡充	<ul style="list-style-type: none"> ●農福連携ビジネスの開発と拠点拡充 ●環福連携モデルの横展開 ●CEコンサルティングサービスの提供 ●環境DXシステムの開発 	 <table border="1"> <tr><th>年</th><td>2023年</td><td>2024年</td><td>2026年</td><td>2028年</td></tr> <tr><th>売上高</th><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>9</td></tr> </table>	年	2023年	2024年	2026年	2028年	売上高	4	5	6	9	 <table border="1"> <tr><th>年</th><td>2023年</td><td>2024年</td><td>2026年</td><td>2028年</td></tr> <tr><th>利益</th><td>0.9</td><td>0.8</td><td>1.5</td><td>3.0</td></tr> </table>	年	2023年	2024年	2026年	2028年	利益	0.9	0.8	1.5	3.0
年	2023年	2024年	2026年	2028年																				
売上高	4	5	6	9																				
年	2023年	2024年	2026年	2028年																				
利益	0.9	0.8	1.5	3.0																				